

事務事業名		公害防止測定調査事業(騒音、大気、水質)		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 合併建設計画登載事業								
政策体系	政策名	0121 自然豊かな環境の保全と創造		事業期間		予算科目								
	施策名	0151 環境の保全と共生				会計	款	項	目	事業				
	基本事業名	0131 良好な生活環境の確保		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 59 年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入		01	04	01	03	03				
根拠法令	騒音規制法、水質汚濁防止法													
所属	部課名	生活福祉部市民生活環境課												
	係名	環境衛生係	電話 内線	124										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ)								
市内の沿道の生活環境、一般環境騒音、河川水質についての実態を把握するため、下記調査を実施している。 ・沿道における降下ばいじん調査・デボジット・ゲージ法により、沿道における降下ばいじんを測定。昭和59年度から 通年2箇所を実施。 ・一般環境騒音・積分形普通騒音計を使用し10分毎の等価騒音レベルの24時間測定を実施。昭和63年度から毎 年10~12月の間において騒音規制地域内の市内8地点を測定している。 ・河川水質・市内10箇所(盛川及び支流、須崎川、新田都市下水道)におけるBOD・SS・pH等の水質項目を調 査。平成19年度からは、環境関連調査の調査項目へ移行し、この事業では調査を実施しないこととした。 ・事業費は測定のための機器の検定費用、消耗品費、分析委託料として年間150千円程度支出。						総 投 入 量 (千 円)	財 源 内 訳	国庫支出金						
								都道府県支出金						
								地方債						
								その他						
								一般財源						
事業費計(A)						0								
正規職員従事人数														
延べ業務時間														
人件費計(B)						0								
トータルコスト(A)+(B)						0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
手段(主な活動)		名称		
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位		
・騒音測定調査(市内8箇所、各々24時間計測・1項目) ・大気(道路粉じん)調査(市内2箇所、1ヶ月毎集計で通年調査・1項目) ・河川水質調査(実施しない)		ア	騒音測定延べ回数	回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	大気測定延べ回数	回
前年度同様の規模で実施する。		ウ	河川水質測定延べ回数	回
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)		
・騒音の規制地域における生活環境(騒音) ・市内の大気環境 ・市内河川の水質		名称		
		単位		
		カ	騒音規制地域内における騒音測定調査実施地点数	箇所
		キ	道路粉塵調査実施地点数	箇所
		ク	河川水質調査の実施地点数	箇所
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
・騒音、大気汚染状況、水質汚濁状況が、各々の基準に適合しているかどうか、基準が 設定されていないものについては、以前からの測定値と比較してどうい変化を示してい るのかを明らかにする。		名称		
		単位		
		サ	騒音の環境基準達成率	%
		シ	大気汚染の軽度汚染超過率	%
		ス	水質汚濁の環境基準達成率(BOD)	%
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)				
・良好な生活環境を確保する				

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業内訳	単位	年度								
			17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)			
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円	75	75	75	75	75	75		
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円	73	121	127	125	200	126		
	事業費計(A)		千円	148	196	202	200	275	201		
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3		
		延べ業務時間	時間	370	370	370	370	370	370		
		人件費計(B)	千円	1,480	1,480	1,480	1,480	1,480	1,480		
		トータルコスト(A)+(B)		千円	1,628	1,676	1,682	1,680	1,755	1,681	
活動指標		ア	回	8	8	8	8	8	8		
		イ	回	24	24	24	24	24	23		
		ウ	回	60	120	50	50	0	0		
対象指標		カ	箇所	8	8	8	8	8	8		
		キ	箇所	2	2	2	2	2	2		
		ク	箇所	15	15	10	10	0	0		
成果指標		サ	%	100	100	100	100	100	100		
		シ	%	0	0	0	0	0	0		
		ス	%	100	100	100	100	-	-		

事務事業ID	0067	事務事業名	公害防止測定調査事業(騒音、大気、水質)
--------	------	-------	----------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

道路粉じん測定は、かつて冬季のスパイクタイヤ装着車両による道路粉じんが大きな社会問題になったことに伴い、沿道の生活環境の実態を把握するため、市内2箇所測定を開始した。一般環境騒音については、昭和63年度に本市も環境基準指定地域となったことから、市内18地点で環境騒音測定を開始した。河川水質調査については、昭和53年度から平成18年度まで自主調査として測定を実施したが、主要河川の監視調査は県で行っていることから平成19年度から中止とした。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・一般環境騒音については、騒音の環境基準が改定(平成11年4月1日施行)され、等価騒音レベルにより評価されることとなったため、平成11年度以降は新たな(改定内容に準じた)方法で測定し、測定地点も8地点とした。
 ・道路粉じんについては、スパイクタイヤの使用禁止に伴い、かつては高い数値であったが現在は、改善している。なお、昭和59年度から通年2箇所調査していたが、東日本大震災で調査地点1箇所が流失したため、平成23年3月は1箇所での調査となった。
 ・河川水質については、かつて県内最悪ともいわれた須崎川の水質は下水道の進捗や地元団体の水質浄化活動等により、水質浄化が進んでいる。また、新田都市下水路についても未だ汚濁は見られるものの、下水道の進捗により水質浄化が進んでいる。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・大気環境については、道路粉じん以外に県での通年自動測定行われているが、現在、太平洋セメントに県境産廃が搬入されていることもあり、地元住民からは測定内容(項目)の拡充が要望されている。また河川水質については、旧三陸町地域において、事業場排水や生活雑排水の流入、流量の減少等による河川水質の悪化を懸念する声が出ている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている [理由] → この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 騒音、大気等の環境の変化を把握することは、万一、環境が悪化した場合のその兆候を捕らえ対策を講じるうえで重要であり、市民の良好な生活環境を確保していくために必要な事業である。また、東日本大震災の発生により、災害廃棄物からの粉じんや重機等の作業音などの環境悪化の懸念材料が生じているため、事業の必要性は増している。
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である [理由] → なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 大船渡市環境基本条例に基づく市の責務を実施するための基礎調査を実施する事業であるため、この事業を実施することは市の責務である。
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である [理由] → 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 市内におけるさまざまな環境測定については、岩手県においても実施しており、現在市が実施している測定調査と併せ十分な測定が実施されており、これ以上の限定・追加の必要はない。 測定項目の適合状況、過去データとの把握によって、明らかに環境が悪化していると判断できる場合、その原因究明、周辺環境や市民への影響等の詳細な調査が必要となってくるが、現段階ではその状況にはない。
有効性 評価	成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない [理由] → 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 環境基準が設定されている全測定地点において基準を満たしており、これ以上の成果の向上余地はない。
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 [その内容] → 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 大気、騒音調査ともに本事業の実施以外に市内の状況を把握することは困難であり、廃止・休止は出来ない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある → (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない [理由] → <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない [理由] → 大気、騒音については現在、本事業に代わる事業はなく、目的の達成には本事業以外ない。河川水質調査は、主要河川については県で行っていることから、平成19年度からは中止した。
効率性 評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない [理由] → 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 本事業の事業費は、測定機器設置地主への謝礼、騒音・水質測定機器の検定料及び降下ばいじん等の分析に係る委託料である。測定地点の土地管理者に対しては、測定期間が短期間であることから、土地借り上げ料ではなく謝礼(千円程度の粗品)により協力をお願いしている。機器検定料及び委託料については、測定及び分析結果が会議資料や「大船渡市の環境」に公表される資料となるため、測定機器の検定及び専門機関での分析は必要であるため、事業費削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない [理由] → やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 大気(道路粉じん)は、分析は専門業者に委託しているが、検体回収及び設置は市職員が行っている。検体回収・設置に要する時間は1時間程度であり、委託すると業務時間は短縮できるが事業費は増大してしまう。同様に騒音測定調査は、市職員が測定機器の設置・回収・分析を行っているが、要する時間は短時間であり、委託すると事業費が増大してしまう。河川の水質調査は、既に環境関連調査に統合し、外部委託での調査を実施している。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である [理由] → 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 行政主体で行っている事業であるため受益者負担は発生しない。また、事業による効果は、市域全体の環境保全に資するものであり、一部の受益者に偏るものではなく不公平な状態にはない。

事務事業ID	0067	事務事業名	公害防止測定調査事業(騒音、大気、水質)
--------	------	-------	----------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<p>(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)</p> <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>(2) 全体総括(振り返り、反省点) 今年度の実施内容については、実施時期、回数等含め、おおむね適切であった。今後とも他業務との日程調整により、適正な測定回数を維持することとしたい。</p>									
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
<p>(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 事業のやり方改善 (<input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善) </div> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>大気(道路粉じん)、騒音については現状維持で進める。 河川の水質測定調査については、主要河川について県で行っていることから、平成19年度から中止している。</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<p>(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</p>																						

(職名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	市民生活環境課長
-------	----------

<p>(1) 1次評価結果の客観性と出来具合</p> <p>記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</p> <input type="checkbox"/> 記述不足でわかりにくい <input type="checkbox"/> 一部記述不足のところがある <input checked="" type="checkbox"/> 記述は十分なされている <p>評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</p> <input type="checkbox"/> 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) <input type="checkbox"/> 一部に客観性を欠いたところがある <input checked="" type="checkbox"/> 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
<p>(2) 2次評価者としての評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>(3) 評価結果の根拠と理由 実施時期、回数も適切であり、実施結果も良好であったことから、適切な事務執行がなされている。</p>									
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
<p>(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 事業のやり方改善 (<input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善) </div> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>東日本大震災による被害や復旧・復興作業等によって、市内の環境が通常とは異なる影響を与えることが懸念されることから、継続して事業を実施し、結果等を注視していく必要がある。</p>	<p>(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

<p>(1) 行政経営推進会議等での指摘事項</p>
